

目的・目標

本取組では、看護実践能力を備えた人材を育成するための看護実践事例を学習できるeラーニング教材を開発し、看護学生が利用しやすい環境を整備します。このeラーニングは、看護教育のカリキュラムの中で実施している講義・学内実習・臨地実習の学習上の問題を解決するために、それぞれの学習形態の間を補完し、学内外での学習活動の効率化と利便性の向上を図り、あわせて学生の主体的な学習態度を育成することを目的としています。

目標

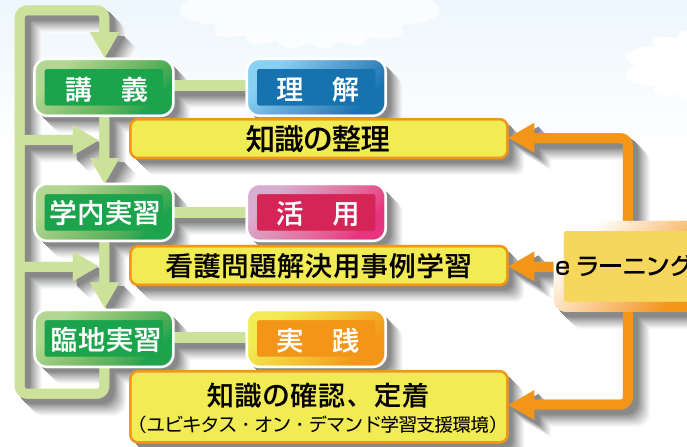
- 1) 100個の看護実践事例教材の開発とデータベースの構築
(平成17年度57事例、平成18年度44事例)
- 2) 看護学生が利用しやすい
ユビキタス・オン・デマンドな学習支援環境の構築
(平成18年度から試行開始)

目的

- 1) 既習看護専門知識の整理と統合
- 2) 看護技術の習得
- 3) 看護問題解決能力の向上

看護教育でのeラーニングの活用

eラーニングにより看護学習機会の補完、対象者のイメージ化の促進、主体的な学習態度の育成を図ることができると考えます。



看護実践事例教材

eラーニング教材は、看護実践の場面を事例としてとりあげています。

教材は、対象者や看護場面をイメージしやすいように、音声や画像などのマルチメディアを活用しています。また、事例の分析ポイントを段階的に提示することにより、学習者の思考過程を整理できるようにしています。関連する知識、看護技術、演習問題なども学習できます。さらに、これらのデジタル副教材は、再構成し、二次利用することにより、新しい教材の作成や追加も容易にします。

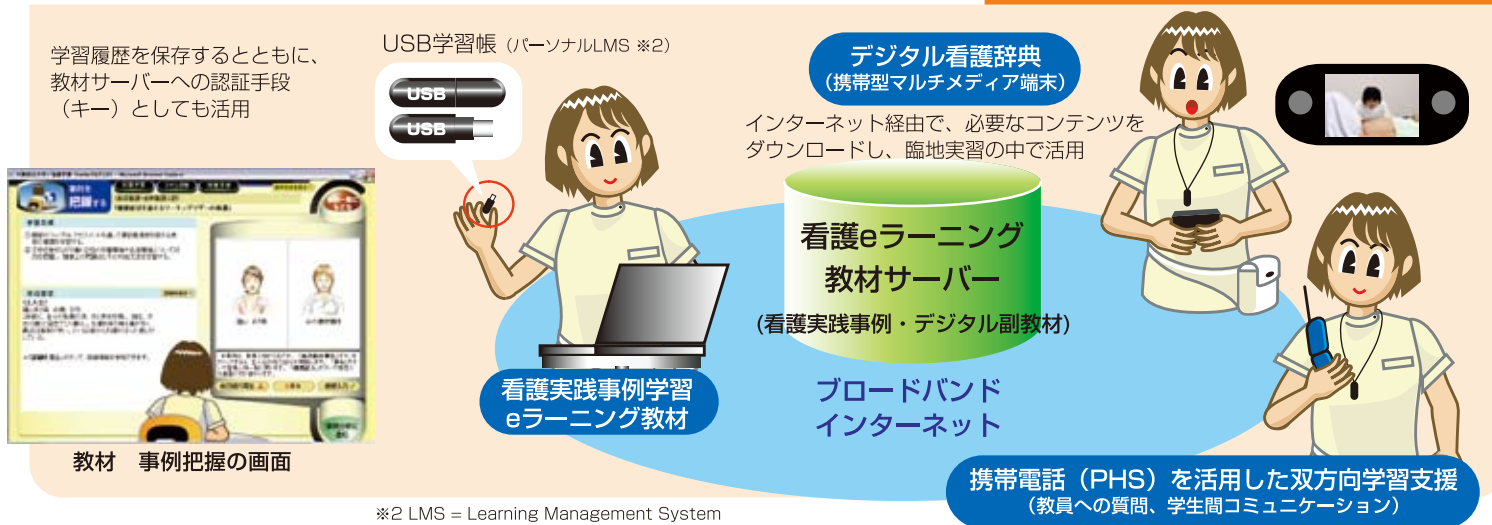
平成18年度には開発した教材を使用して授業実践を行っています。これまでの紙事例と異なり音声で自己紹介されるため、学生の興味が喚起され事例対象者へのイメージ化が進みます。看護技術映像は具体的に実践的であるという意見も聞かれました。平成19年度は、授業や実習での本格的な教育実践活動とプロジェクト評価を行う予定です。

ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境

臨地実習中や自己学習において、インターネットや情報通信機器を利用した看護学生の学習を支援します。

ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築は、インターネットでの利用はもちろんですが、インターネットが整備されていない、あるいは病院などの制限された実習環境でも、学生自身が作成した「デジタル看護辞典」で容易に学習できる点がユニークです。学生は、自分用の「デジタル看護辞典」を作成することにより、既習知識の整理ができ、情報活用能力と共に主体的な学習姿勢が培われていくと考えられます。

●看護学生が簡単に利用できる学習環境作り



※2 LMS = Learning Management System

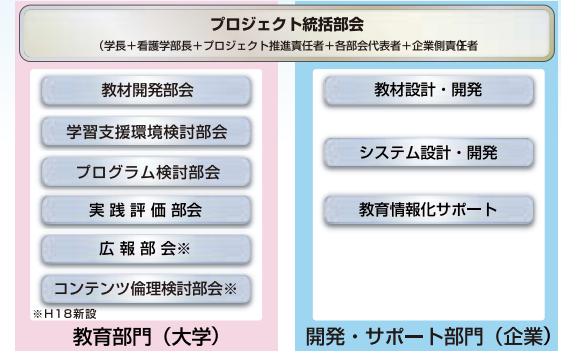
教材開発のサイクル

開発プロセスをシステム化することで、効率的な教材開発を実現しました。



プロジェクト実施体制

学内の組織化を行ない、併せて教材開発を効率的に進めるため、民間企業のサポートを得ながら、プロジェクトを推進していきます。本取組での教材開発体制や手法、及びプログラム評価における知見は、今後の大学でのeラーニングコース開発において参考になるものと思われます。



社会的貢献

- 高度な看護実践能力を持った看護職の創出を可能にし、看護の質向上に寄与する
- 看護実践問題解決能力を育成するeラーニング教材の充実により、学内だけでなく、社会でもその教材を活用できる
- 教育方法の開発により、看護教育分野でのeラーニングモデルの構築を可能にする
- 看護職の情報活用能力と教員の教育実践能力の向上を図ることに寄与できる

平成18年度制作風景



eラーニング教材の概要

eラーニングで看護実践事例学習（看護過程の展開）と「看護基礎知識」、「看護基礎技術」、「国家試験対策」の学習が可能な仕組みとなっています。



取組の概要

本取組では、看護における問題解決能力を育成するための看護実践事例学習用eラーニング教材を開発します。さらに、学内教育および臨地実習において、看護学生が、いつでも、どこでも、簡単に、eラーニングで自己学習しやすいユビキタス・オン・デマンド学習支援環境を構築します。これらにより、4年間の学内外での学習機会を通じて、看護問題解決能力を主体的かつ効果的に獲得できるよう支援し、高度な看護実践能力を備えた人材を育成します。

学習履歴が記録できる機能を備えたUSBメモリをパソコンに装着することで、簡単に、看護教材サーバから事例教材をダウンロードできます。さらに、臨地実習や試験前に必要な知識カードや看護技術映像などの副教材をダウンロードして、自作のデジタル看護辞典を作成することができますようにします。この看護辞典を作成する過程で、学生たちは、自学自習し、既習知識の整理や統合ができると考えます。また、自己学習中の学習支援として、携帯電話のメール機能を活用して教員に指導を仰げるような双方向学習支援環境を整備します。



プロジェクト説明用映像より

現代GPとは

各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

背景

医療の高度化、患者のニーズの多様化に伴い、看護教育機関に対し、看護実践能力（患者の状況を的確に把握・分析し、適切な看護を実践できる能力）を備えた看護職の人材育成が求められています。この社会的ニーズに対応するために教育内容や教授方法の一層の質的な改善を図り、学生が効果的に学習できる新しい環境を提供していく必要があります。病院などで行う臨地実習は、実際の患者に接することができ、看護実践能力を養うために非常に有効な学習機会ですが、この場で看護学生は非常に多くのことを学びます。そのため、看護教育では必須のカリキュラムとなっています。しかし、実習施設はいろいろな場所に点在していますし、大学と同等の学習環境（図書館やインターネット、情報機器）が必ずしも整備されているわけではありません。そこで、この臨地実習をeラーニングという方法を使って補うことによって、学習環境を整えるとともに、さらに学習の質を高められるのではないかと考え、本取組を提案しました。

現在までの活動

2005	08/24	現代GP キックオフ会議開催
	09/29	現代GP 第1回研修会開催
	10/12	現代GP 第2回研修会開催
	10/19	現代GP 第3回研修会開催
	11/02	現代GP 第4回研修会開催
2006	01/06	第1回e学習理論研究会開催
	01/19	教材用音声ナレーションの公開収録
	03/04	現代GP 第1回ワークショップ
	03/10	平成17年度 現代GP活動報告会開催
	03/24	平成17年度制作教材完成
	05/27	国際シンポジウム開催「未来を切り開く人材育成」
	06/16	教育著作権セミナー開催 「教育におけるメディア活用と著作権」
	07/26 - 28	e-Learning World 2006(東京ビックサイト)出展
	08/22	ナレーション公開収録
	09/19	スキル映像公開撮影
2007	11/03 - 05	日本教育工学会 第22回全国大会 発表
	12/01	CanGo Project プロモーションビデオ完成 (日本語版/英語版)
	12/25	現代GP 教員向け研修会開催
	12/02 - 03	第26回看護科学学会(交流集会)発表
	12/09 - 10	第2回e学習理論研究会開催
	02/21	現代GP 第2回ワークショップ開催
	03/19	平成18年度 現代GP活動報告会開催
	03/24	第1回看護・医療系大学 eラーニング交流会開催
	03/26	平成18年度制作教材完成

お問い合わせ

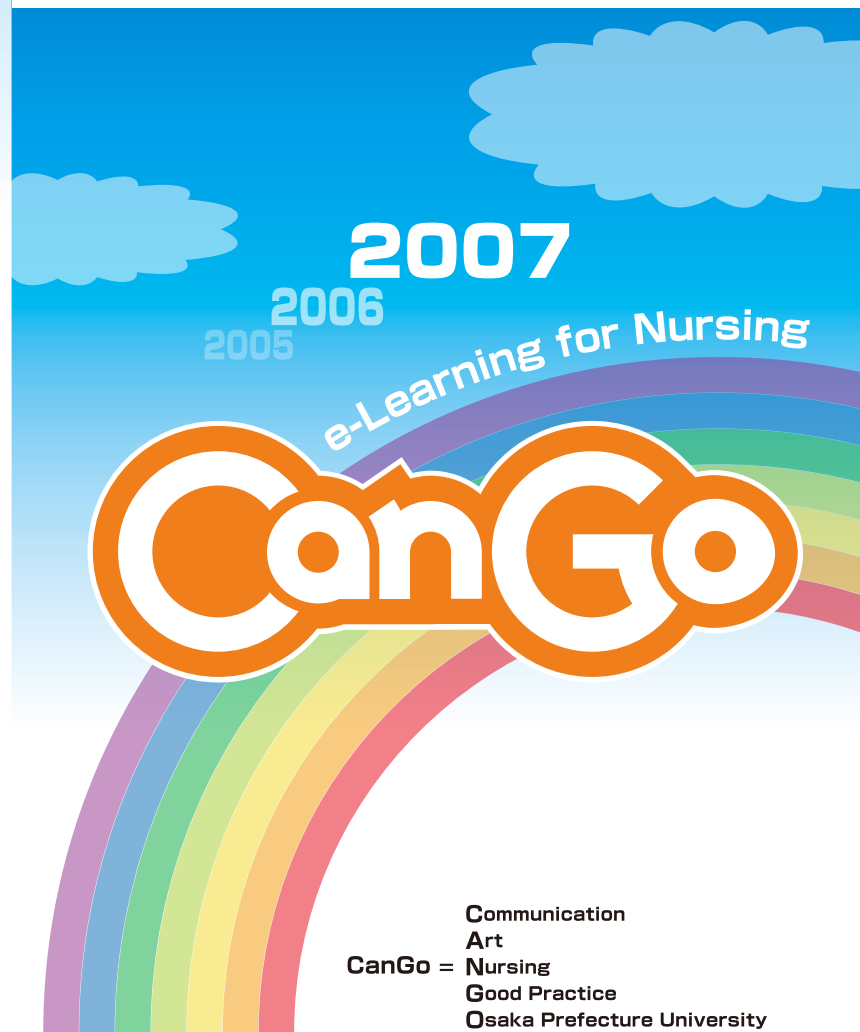
連絡先 : CanGo Project 看護教材開発研究センター
(通称 : eラーニングセンター)
住所 : 大阪府立大学 看護学部内 K511室
〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの3-7-30
TEL : 072 - 950 - 2111 内線2730
FAX : 072 - 950 - 2131
Mail : cango@nursing.osakafu-u.ac.jp
URL : <http://www.cango.jp>

We
Can Go
!!



平成17年度 文部科学省採択 現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP)

ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発



テーマ

看護実践能力の獲得を支援する e-Learning

臨地実習用ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築



INDEX

- 取組の概要
- 現代GPとは
- 背景
- 目的・目標
- 看護実践事例教材
- ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境
- プロジェクト実施体制
- 社会的貢献

平成17年度のスタート



CanGo プロジェクト
キックオフ ミーティング



南学長



平成17年度活動報告会



平成18年度 国際シンポジウム
「未来を切り開く人材育成」



平成18年度活動報告会